

令和3年度 ひきこもり対策推進事業委託業務

ひきこもり対策推進事業
実績報告書

公益財団法人北海道精神保健推進協会
北海道ひきこもり成年相談センター

はじめに

当法人では、平成 21 年度から「ひきこもり対策推進事業」を北海道より受託し『北海道ひきこもり成年相談センター』（以下、「当センター」という）を設置し、第一相談窓口としての機能を果たすとともに、関係機関とのネットワーク構築及び一般市民に対する普及啓発を行ってきた。

ひきこもりは様々な要因や問題が複雑に関係しているため相談機関 1 ヶ所での対応には限界があり、他機関とも連携し対応を進めていかなければならないと感じている。また、当センターの役割として、直接的な相談対応だけでなく、地域の中でどのようにひきこもり当事者や家族を支えていくのか、道内各地域での人材育成に関わることが急務であると考えており、支援にあたっては、ひきこもりの期間やひきこもり当事者の年齢によってその状態像や支援ニーズは異なるため、状況に応じてアセスメントを行い、支援手段を模索する必要がある。

令和 3 年度では、「ひきこもり相談会・研修会」として、引き続き各保健所および市町村に希望確認を行い、希望のあった地域と連絡調整をし、研修会等を実施した。希望のあった地域は、新たに希望する地域や過去に開催した地域から引き続きの要望もあり、依然としてニーズが高いことが窺えるが、当年度においては新型コロナウイルスの影響からオンラインでの開催も多く行った。

当センターは札幌市に所在し、道内各地での面談での個別相談は限界がある。そのため、ひきこもり支援に携わる市町村職員等への後方支援として、研修会、個別相談、ケース検討などを通じて北海道全体における「ひきこもり支援」のスキルアップを目指した。当年度はオンラインを活用した研修会やケース検討も実施し、利便性もよく好評であったため、広域な北海道に有用な手段として今後も活用したい。

なお、相談支援の流れは以下のとおりになっている。

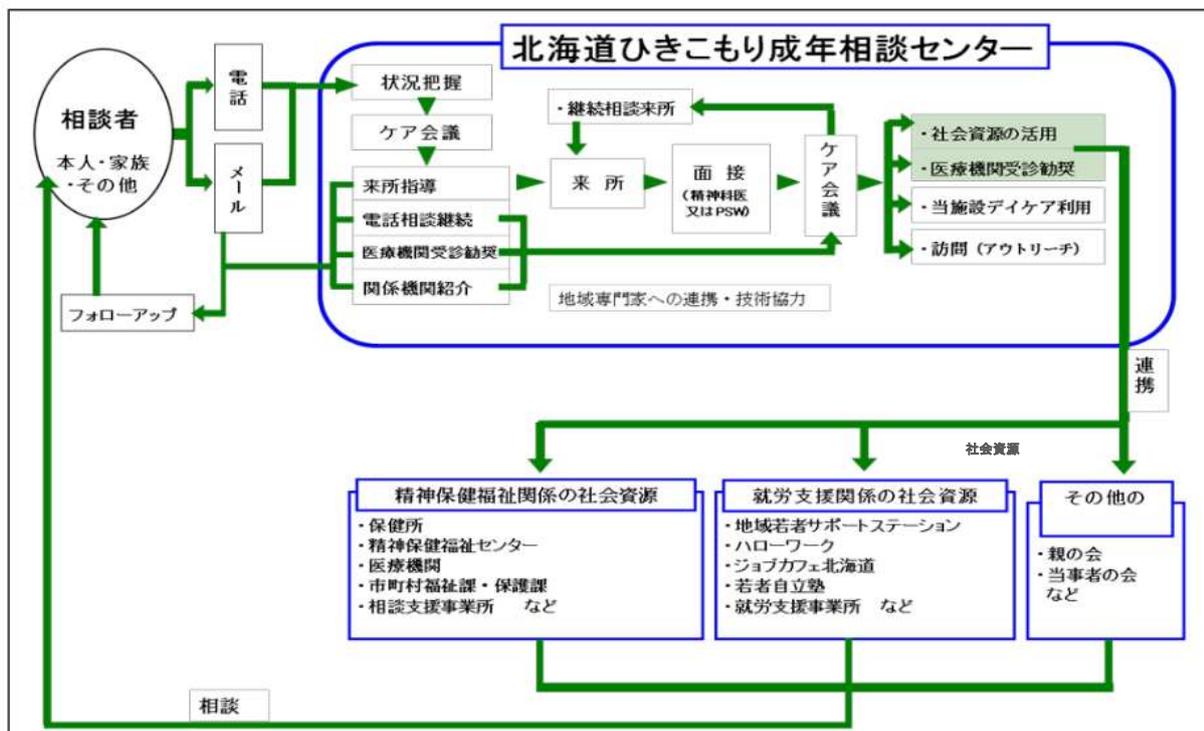


図 1 相談支援の流れ

1. 相談支援実施状況

当センターでは、平成 21 年 7 月 1 日からひきこもりの相談事業を開始している。

なお、平成 27 年 10 月 1 日以降「札幌市ひきこもり地域支援センター」の運営を受託していることから、札幌市民の相談件数はカウントしていない。札幌市民の相談件数をカウントしなくなった平成 28 年度より、相談総件数は増加しているが、これは平成 29 年度より行っている「ひきこもり相談会・研修会」による影響も大きいと思われる。

(1) 相談支援概要

ア. 相談件数 (単位:件)

相談件数計	513
新規相談	91
継続相談	422

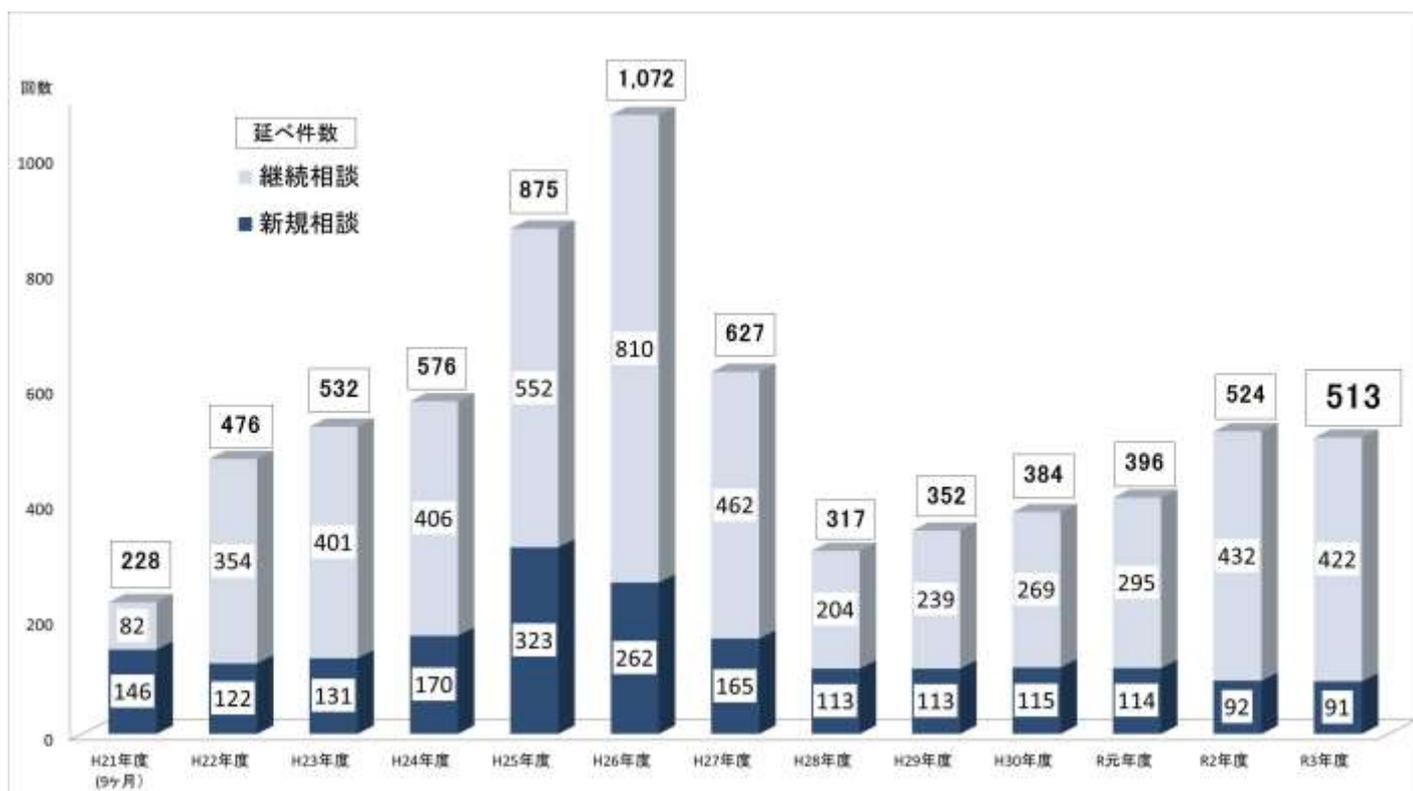


図2 相談件数の推移 (年度別)

○当年度の相談延べ件数は、513件であり、新規相談者は91名であった。

○相談件数は、新規相談・継続相談ともに昨年度と同程度となっている。

イ. 相談者数

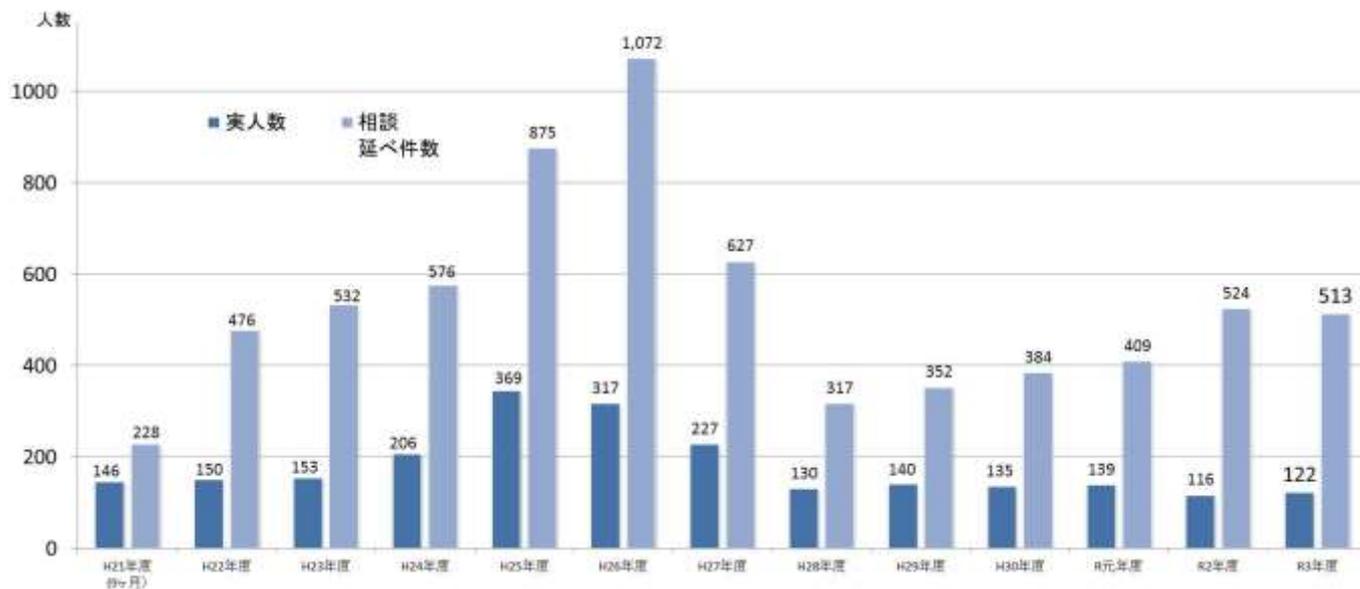


図3 相談延べ件数と実人数（年度別）

○当年度の相談実人数は122名で、平均して1ケースあたり約4.2回の相談であり（前年度は約4.5回）、新型コロナウイルスにおける影響もありながら、昨年度と同程度の件数を維持している。

（※相談実人数は、新規相談者に加え、前年度以前から継続している者も含まれる。）

（※相談実人数122名のうち、新規相談が91名、継続相談が31名となる。継続相談の内訳は3ページ参照。）

ウ. 相談方法

(単位:回)

	新規相談	継続相談	計	構成比
電話	65	77	142	26.2%
来所	2	61	63	11.6%
メール	22	281	303	55.8%
アウトリーチ	2	3	5	0.9%
小計	91	422	513	
連携	-	30	30	5.5%
ケア会議	-	-	-	-
小計	-	30	30	-
計	91	452	543	100%

(※相談方法に「連携」、「ケア会議」を含む)

(※「アウトリーチ」には、関係機関を訪問し実施したケース検討会を含む) ※詳細は15ページ参照

(※「電話」には、当年度オンラインによる新規相談が7件、継続相談が1件含む)

- 主な相談方法は「メール」や「電話」による相談であり、それぞれ「来所相談」に切り替えるケースもある。
- 「メール」による相談件数は全体の半数以上となる。これは、「電話」や「来所」に比べ相談が容易く頻度が多いためと考えられる。当年度の主な内訳としては、「遠隔地であるため継続したメールのみ相談」、「メール相談から来所および外来へ繋がったケースやアフターフォロー」、「遠隔地であったため地元の相談先へ繋いだケース」などがあげられる。
- 「ケア会議」に計上はしていないが、必要に応じ、すべての相談ケースにおいて、日頃から所内の各相談員同士で支援方法についてケース検討・会議を実施している。

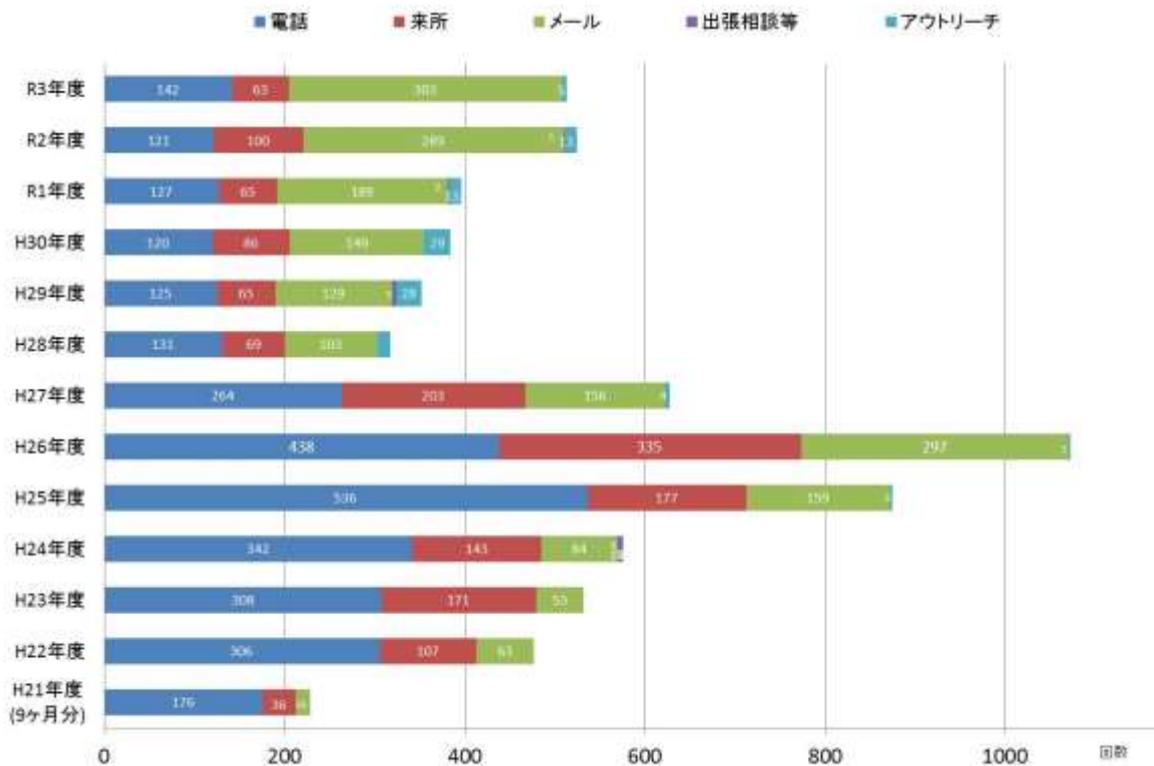


図4 相談方法別件数 (年度別)

エ. 相談時間

相談方法別相談時間区分件数

(単位:回)

	0～ 15分未満	15～ 30分未満	30～ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時:分)	平均 所要時間
電話	23	52	56	11	142	67:00	28分
来所		3	29	31	63	58:10	55分
メール	204	67	31	1	303	72:30	14分
アウトリーチ			1	4	5	6:25	1時間17分
連携	15	10	4	1	30	8:45	18分
ケア会議	-	-	-	-	-	-	-
計	242	132	121	48	543	212:50	24分

(1) 電話相談

延べ回数	実人数
142回	83名

○当年度では、関係機関に向けた ZOOM によるオンライン相談支援を 6 回（3 カ所）実施。

※地域の詳細は 15 ページを参照。

○2 ケースにおいて、本人、家族に対してのアウトリーチ相談を実施。

(2) 来所相談

延べ回数	実人数
63回	18名

(3) メール相談

延べ回数	実人数
303回	36名

※延べ回数はメール受信及び返信の回数

(4) アウトリーチ

延べ回数	実人数
5回	3回

○当年度では、関係機関に向けたアウトリーチによる相談支援を 2 回（2 カ所）実施。

※地域の詳細は 15 ページを参照。

○3 ケースにおいて、本人、家族に対してのアウトリーチ相談を実施。

(5) 連携状況

「連携状況」は継続相談においての関係機関へのケースの繋ぎ、または関係機関からのケース紹介（初回）、ケース相談などを指す。関係機関より初回相談があった場合は、相談方法における電話等にカウントしている。継続相談の中で、関係機関との連絡等が「連携」であり、下記の「連携状況」はこれらを合算し詳細を記載する。

他機関からの繋ぎ

連携先	件数
保健所	4
民生委員	1
医療機関（精神科）	1
他ひきこもり相談機関	1
コドモックル	1
計	9

他機関への繋ぎ

連携先	件数
保健所	7
役場	5
医療機関（精神科）	2
他ひきこもり相談機関	2
若者サポートステーション	1
障害者相談支援センター	1
不動産会社	1
地域生活支援センター	1
医療機関（他科）	1
コドモックル	1
精神障害者家族会	1
計	23

(6) 相談者の状況（新規初回相談）

ア. 相談者内訳

	件数	構成比
本人	27	29.7%
父	10	11.0%
母	19	20.9%
両親	4	4.4%
兄弟姉妹等	18	19.8%
その他	13	14.3%
計	91	100%

○当年度は、「本人」からの新規相談が約3割となっている（昨年度は約2割）。

○「その他」は、13件のうち、12件は他機関からのケース相談や、ケース紹介であった。
1件は知人からの相談であった。

イ. 相談方法別相談者内訳

（単位：回）

	電話	来所	メール	アウトリーチ	総計
本人	16		11		27
父	7		2	1	10
母	17	1	1		19
両親	2	1		1	4
兄弟姉妹等	10		8		18
その他	13				13
計	65	2	22	2	91

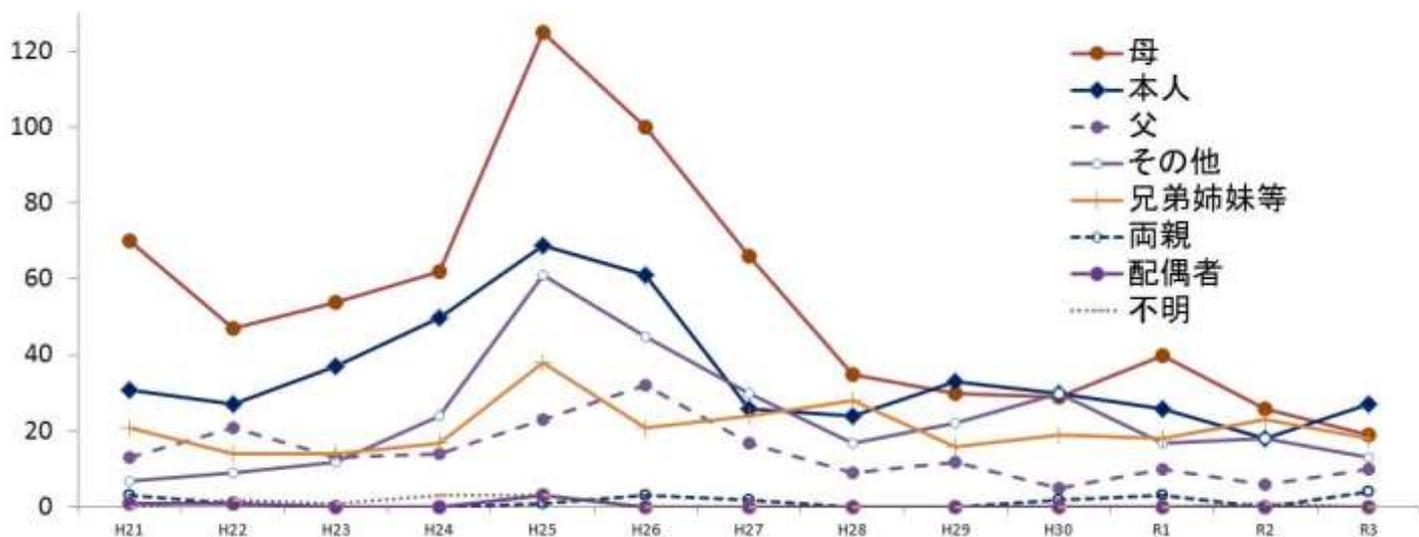


図5 相談者内訳の推移（年度別）

○当年度は、「本人」からの新規相談が一番多くなった。

○「兄弟姉妹等」には、姪、祖父、義弟などの親族も含まれる。

(7) 当事者の状況

ア. 当事者の年齢

(単位：人)

	男	女	不明	計	構成比
20歳未満	5	4	1	10	11.0%
20歳以上～30歳未満	12	7		19	20.9%
30歳以上～40歳未満	15	6		21	23.1%
40歳以上～50歳未満	12	7		19	20.9%
50歳以上～60歳未満	8	4		12	13.2%
60歳以上	1			1	1.1%
不明	5	1	3	9	9.9%
計	58	29	4	91	100%

○「50歳未満」が69名おり、全体の約8割を占める。

○最少年齢は13歳、最高年齢は60歳となっており、男性の平均は35.9歳、女性の平均は33.6歳、全体平均は34.9歳であった。これは、昨年度よりも微増している。

○「不明」には、主な課題が「ひきこもり」ではないケースもあり、年齢が確定しない場合がある。

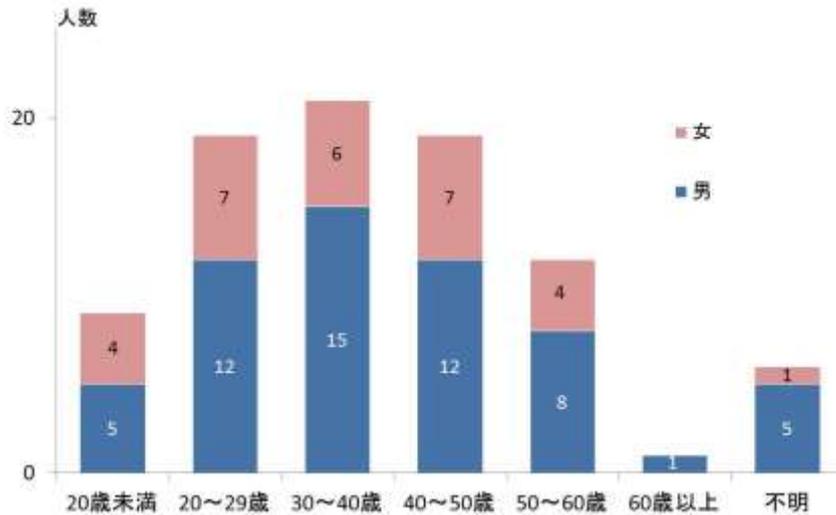


図6 当事者の年齢区分・性別状況

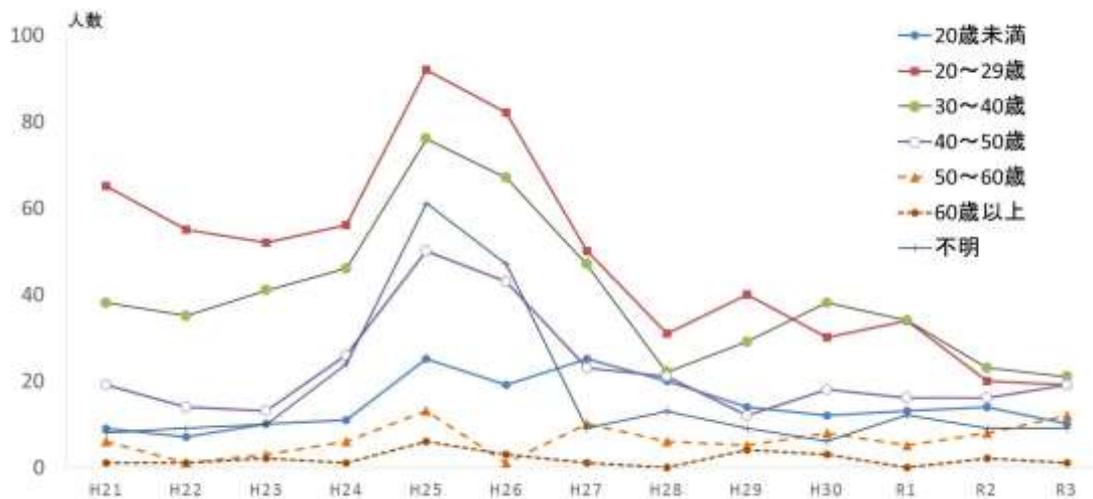


図7 当事者の年齢区分別相談件数(年度別)

イ. 当事者の居住地

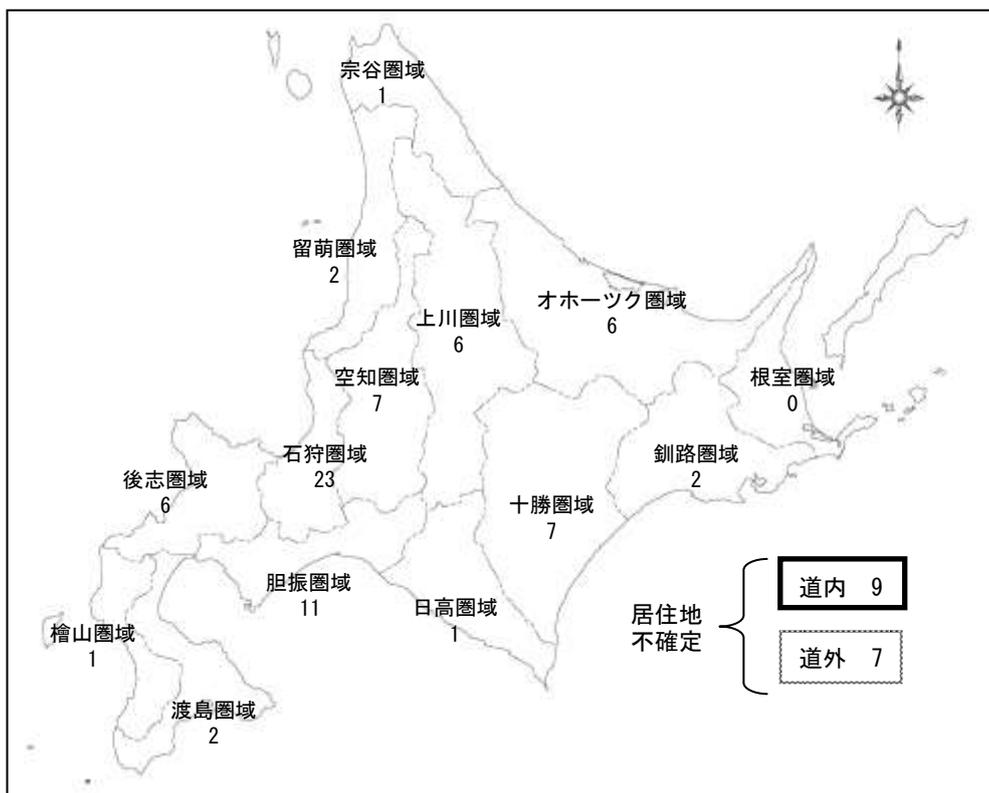


図8 当事者の居住地

- 当年度の相談のうち、「石狩・空知」圏域からの相談者が合計で30名と最も多く、これは当センターが札幌に所在しているのが要因だと思われる。
- 「ひきこもり相談会・研修会」の実施により、遠隔地でのアウトリーチによる相談に繋がっている。年度によって圏域の相談件数に違いが出る要因でもある。※詳細は15ページ参照
- 「道外」については、適切な関係機関を紹介するなどして対応した。

圏域	
石狩	23
胆振	11
道内	9
道外	7
空知	7
十勝	7
後志	6
オホーツク	6
上川	6
渡島	2
釧路	2
留萌	2
宗谷	1
檜山	1
日高	1
根室	0
計	91

(9) 相談目的

相談目的別件数（年度別）

(単位：件数)

内容	当年度											構成比(%)	計		
	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R3年度				
関わり方について	62	53	45	58	75	56	45	28	34	25	25	17	30	33.0%	551
話を聞いてほしい					29	48	25	13	17	9	18	9	8	8.8%	178
来所相談の希望					36	43	18	4	12	6	12	1	2	2.2%	134
今後の生活の仕方について					30	38	18	22	15	18	25	40	26	28.6%	232
事業内容を知りたい					56	29	9	11	4	3	6	3	2	2.2%	123
近隣の相談機関紹介希望	6	6	8	21	35	14	12	10	13	15	8	3	7	7.7%	166
就労・就学について	31	37	22	26	13	14	11	10	1	3	8	8	3	3.3%	189
医療機関を紹介してほしい	14	6	26	5	13	8	4	2	1	3	3	0	1	1.1%	86
当事者の会を紹介してほしい	5	1	4	1	2	1	2	0	2	1	0	0	1	1.1%	20
家庭内暴力の対応	4	5	13	2	5	0	2	0	2	0	0	2	0	0.0%	35
親の会を紹介してほしい			6	2	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0.0%	12
その他	24	14	7	57	27	11	17	13	12	30	7	4	11	12.1%	234
計	148	122	131	170	323	262	165	113	113	115	114	92	91	100%	1957

○相談理由は多岐にわたっている。「関わり方について」「今後の生活の仕方について」が依然として相談目的として高い値を示している。

(※平成 25 年度より相談目的の分類を追加している)

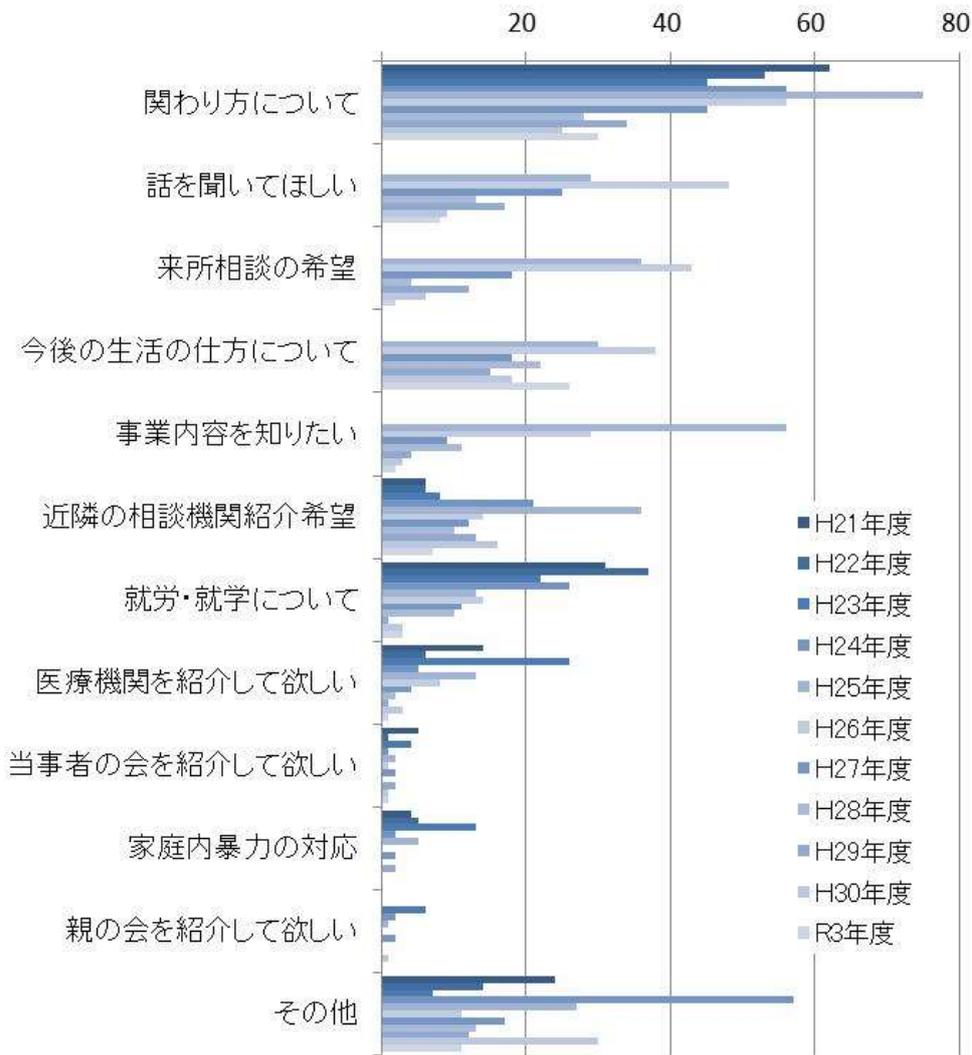


図9 相談目的の推移（年度別）

(10) 他機関への相談経験の有無

	件数	構成比
相談経験あり	53	58.2%
相談経験なし	4	4.4%
不明	34	37.4%
計	91	100%

○当センターへ相談する以前に、他機関へ相談している方が553件(58.2%)であり、当センターに相談につながる前に、すでにひきこもり状態について相談していることが窺える。

また、1ヶ所だけではなく複数の他機関にすでに相談しているケースも多い。

○相談先は、医療機関（精神科・心療内科）が最も多く（37件）、市役所・役場（6件）、保健所（6件）、学校・教育相談（5件）、若者サポートステーション（4件）、生活困窮相談（4件）などであった。

○医療機関（精神科）へ、継続的に相談をしているケースもあったが、治療中断例も少なくはなかった。

(11) 相談の継続性

実人数(相談開始時期別)

	R3年度 に相談を 開始	R2年度 に相談を 開始	R1年度 に相談を 開始	H30年度 に相談を 開始	H29年度 に相談を 開始	H28年度 に相談を 開始	H27年度 に相談を 開始	H26年度 に相談を 開始	H25年度 に相談を 開始	H24年度 に相談を 開始	H23年度 に相談を 開始	H22年度 に相談を 開始	H21年度 に相談を 開始	実人数	相談 延べ件数	当年度 以前の 相談者 計	
H21年度 (9ヶ月)													146	146	228	-	
H22年度												122	28	150	476	28	
H23年度											131	16	6	153	532	22	
H24年度										170	24	7	5	206	576	36	
H25年度									298	17	18	7	4	344	875	46	
H26年度								262	32	4	11	4	4	317	1072	55	
H27年度						165	31	19	2	2	7	1	1	227	627	62	
H28年度					113	11	5	3	5	1	1	1	0	140	352	27	
H29年度				115	13	1	1	1	2	0	1	1	1	0	135	384	20
H30年度				114	9	6	1	3	0	2	0	2	2	0	139	409	25
R元年度		92	11	5	4	0	1	1	1	0	1	0	0	116	524	24	
R2年度																	
R3年度	91	11	9	4	3	0	0	1	1	0	2	0	0	122	513	31	

○令和2年度までの相談者のうち、31名が当年度にも相談を継続している。

○就労・就学や通院などにより、ひきこもり状態から脱したケースもあるが、相談の継続をいかに図り、相談後の転帰の把握をすることが今後も課題と考えている。

(12) 相談転帰

初回相談の転帰

転帰	件数
終了	57
助言終了	40
関係機関紹介	16
受診勧奨	1
来所を指導	3
電話・メール相談継続	31
その他	0
中断	0
総計	91

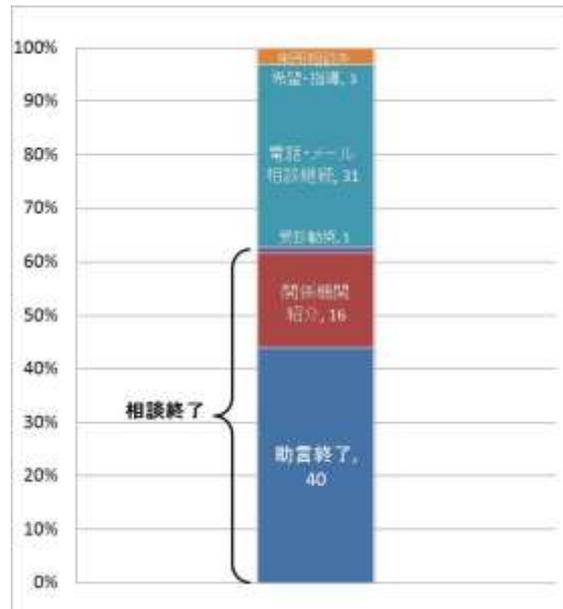


図 1-1 初回相談の転帰

- 初回相談で終了したケース 57 件（62.6%）で、そのうち「助言終了」が 40 件ある。
- 初回相談のうち、助言終了としては「すでに医療機関に繋がっていたケース」や「ひきこもりの相談ではないもの」もあった。
- 電話・メール相談継続が 31 件、来所に切り替えた相談が 3 件で、計 34 件（37.4%）が継続相談を要すると判断し対応した。
- また、助言終了と判断後も再度、電話相談等につながるケースや、別の家族や親族からの相談があるケースもある。

(13) ひきこもり相談から当施設精神科デイケアを活用したケース

ア. 精神科デイケアへの通所

	人数
令和3年度	0
平成21～令和2年度	38
計	38

○ひきこもり相談から当センター併設のデイケア通所につながったケースは当年度0名であった。通算38名のままである。

○デイケア通所した38名のうち、当年度把握している限りにおいて、現在17名※がデイケアから、就労や就学など次のステップへ移行している。また、当センターでの診察を継続している者が1名いる。

(※障害者雇用やアルバイト等の一般就労8名、就労継続支援A型事業所2名、就労継続支援B型事業所4名、就学2名、相談支援事業所1名)

イ. ひきこもり外来状況

年 度	平成21年～ 令和2年度	令和3年度	計
延べ回数	362回	33回	395回
新規ケース	65	2名	67名

○当年度では、ひきこもり相談からひきこもり外来に新たに繋がったケースは2名であった。これまで、合計で67名がひきこもり外来にかかっている。

○当年度では、ひきこもり外来を6名に対して行い、計33回の診察があった。

2. 支援ネットワーク構築等

支援ネットワーク構築として、関係機関に対する事業概要説明をはじめ、研修会の開催、講演会等の講師派遣、研修会参加などにより各支援機関との情報共有、連携を行ってきた。

「ひきこもり相談会・研修会」と連携し、「北海道ひきこもり成年相談センター」のひきこもり支援者連絡会議を実施した。具体的な状況は以下のとおりである。

(1) 事業概要説明等

月	日	実施内容	備考
6	12	北海道新聞より取材（コロナ禍におけるひきこもり相談について）	電話
6	22	北海道障がい福祉課より「令和2年度に若者サポートステーションと連携したケース」について問い合わせ	メールにて回答
6	28	中小企業家同友会より問い合わせ（ひきこもり相談における就労について）	電話
9	1	北海道障がい福祉課より「他機関を利用し社会参加に繋がったケース」について問い合わせ	メールにて回答
10	5	中小企業家同友会、就労困難者チームについて検討会	オンライン
12	6	若者サポートステーション連絡会議	書面開催
12	7	中小企業家同友会、就職困難者支援団体、企業と四者での懇談会	オンライン
12	24	北海道子ども・若者支援地域協議会	書面開催
2	10	一般社団法人 OSD よりそいネットワーク （令和3年度厚生労働省補助事業 ひきこもり支援・孤立孤独問題対策）	アンケート回答

(2) ひきこもり支援者連絡会議実施状況

当年度も、「ひきこもり相談会・研修会」として、各保健所および市町村に希望確認をし、希望のあった地域と連絡調整をし、相談会等を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止をふまえオンライン研修を多く実施した。希望確認の項目と実施状況は以下のとおり。

〈希望確認項目〉

①関わっている機関の職員が集まったのケース検討会

②個別相談（当事者、家族） ③ひきこもりに関する研修会 ④その他

月	日	実 施 内 容	備 考
10	7	壮警町（室蘭保健所） ひきこもり個別相談	オンライン
10	14	ひだか町（静内保健所） ケース検討	電話
10	18	幕別町 ひきこもり個別相談	オンライン
10	22	北見市（北見保健所） ひきこもり研修会	研修会講師 ※オンライン
11	16	妹背牛町（深川保健所） ケース検討	オンライン
11	10	壮警町（室蘭保健所） 個別相談	オンライン
11	11	南幌町（岩見沢保健所） ケース検討・個別相談	アウトリーチ
12	2	北広島市（千歳保健所） ケース検討	オンライン
12	15	和寒町（名寄保健所） ひきこもり研修会	研修会講師 ※オンライン
12	20	石狩市 ひきこもり研修会 (石狩市子ども・若者支援協議会)	研修会講師
1	13	帯広市（帯広保健所） ひきこもり研修会	研修会講師
1	18	名寄市（名寄保健所） ひきこもり研修会	研修会講師 ※オンライン
1	19	赤井川村（倶知安保健所） ひきこもり研修会	研修会講師 ※オンライン
1	21	壮警町（室蘭保健所） 個別相談	オンライン
3		士幌町（帯広保健所） ひきこもり研修会	研修会講師 ※中止→研修会動画を配布

※設置要綱 別紙 1

(3) ひきこもり支援関係者研修会実施状況

月	日	実施内容	備考
2	21 ～ 28	令和3年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会 「それぞれの個性で続けていくひきこもり相談」 インターネット配信期間：2/21(月)～2/28(月) 参加者居住地内訳：北海道(札幌市以外)106名、札幌市46名	※講師：コーディネーター4名

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、録画配信による「インターネット配信」研修会とした。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、1週間(24時間いつでも)閲覧できるよう工夫を凝らした。

(4) ひきこもり関連会議参加状況

月	日	実施内容	備考
12	8	北海道地域若者サポートステーション連絡会議	書面開催
12	10	令和3年度ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会 総会および研修会	1名参加 ※オンライン

(5) 講師派遣状況等

月	日	実施内容	備考
6	5	ひきこもりの暮らしを支えるライフライン 主催：NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	1名派遣
7	10	令和3年度釧路保健所精神保健講演会(北海道釧路総合振興局)	1名派遣
12	20	令和3年度精神保健医療業務に係る市町村説明・研修会 主催：北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課	1名派遣 (オンライン開催)
12	20	石狩市子ども・若者支援地域協議会代表者会議	1名派遣

(6) 外部研修参加状況等

月	日	実施内容	備考
7	3 4	第57回社会福祉セミナー「ひきこもり」と社会福祉 ※オンライン研修	2名参加
8	2 1	ひきこもり親子公開対論 主催：NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	1名参加 ※当センター後援
11	2 5 2 6	ひきこもり対策研修（厚生労働省こころの健康づくり対策事業） ※オンライン研修	2名参加
11	2 7 2 8	第15回KHJ全国大会 ※オンライン研修 主催：KHJ 全国ひきこもり家族会連合会	1名参加
1 2	3 1 1	ひきこもり対策研修（厚生労働省こころの健康づくり対策事業） ※オンライン研修	2名参加
2	2 4	令和3年度北海道困難を有する子ども・若者の支援連携研修会 ※オンライン研修	1名参加

(7) ひきこもりサポーター養成研修事業

月	日	実施内容	備考
3	2 6	ひきこもりサポーター養成研修 「当事者の体験から学ぶ」 オンライン開催 3/26(土) 参加者居住地内訳：北海道(札幌市以外)1名、札幌市5名	※講師：当事者1名 (当センター元相談者)

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、ZOOMによるオンライン研修会とした。

※新型コロナウイルスの影響から、協議会は中止とした。※設置要綱 別紙2

3. 普及啓発

相談先の掲載、インタビュー協力、リーフレット送付等により、ひきこもりに関する正しい知識の普及に努めた。

(1) 普及啓発実施状況

月	日	実施内容	備考
4	16	奈良県よりひきこもり地域支援センター相談員の雇用条件について (照会)	電話
5	19	厚生労働省調査票 A 提出	メール
6	23	2022年版「民生委員・児童委員手帳」関係機関・団体一覧の掲載	相談先掲載
7	1	ひきこもりや心の健康などに関する相談窓口の周知内容について (帯広市地域福祉課)	相談先掲載
8	10	「ともに暮らしていくために」各種制度ガイドブック(北広島市)	相談先掲載
8	21	「8050問題を抱える家庭に対する相談支援のありかたについて」 A大学よりインタビュー	電話
9	21	「ひきこもり支援について」 B大学よりインタビュー	電話
10	28	北海道警察人身安全対策課より「引き出し屋」について問い合わせ	電話
10	29	ひきこもり地域支援センターにおける研修ニーズに関するアンケート調査(厚生労働省社会福祉推進事業)	WEB 回答
10	29	生活保護に関するアンケート(札幌市厚別区生活保護課)	メール
12	8	「社会的孤立状態にある人への支援における支援者の困難と工夫の実態」アンケート	WEB 回答
12	28	「ひきこもり相談におけるメール相談と電話相談について」C大学より問い合わせ	書面回答
1	14	NPO 法人 OSD よりそいネットワーク アンケート	WEB 回答
-	-	道内保健所および市町村へリーフレット送付	郵送

○講演会や研修会などを活用しひきこもり本人および本人に向けたリーフレットを適宜配布した。

(2) インターネット利用（ホームページ）による情報発信

「ひきこもり」に対する理解の促進や相談先としての周知、支援団体や相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

ひきこもり相談ホームページアクセス件数

年 度	件 数	備 考
令和3年度	18,027件	
令和2年度	19,640件	
令和元年度	23,001件	
30年度	20,320件	
29年度	19,876件	
28年度	17,297件	
27年度	13,552件	
26年度	13,865件	
25年度	11,431件	
24年度	8,032件	
23年度	4,232件	
22年度	3,220件	
21年度	3,109件	(9ヶ月分)

○総閲覧数は昨年度に比べ減少しているものの、相談方法ページの閲覧が7,118件あり、昨年度よりも微増しており、相談者が相談先を探す方法として活用されているものと思われる。